

倶多楽の火山活動解説資料（平成 20 年 4 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙及び熱活動（図 2～4）

15 日に現地調査を実施しました。日和山山頂部、大湯沼、地獄谷等の噴気や地表面温度分布は、これまで(前回：2007 年 10 月)と比較して大きな変化はありませんでした。

なお、2007 年 5 月 3 日に大正地獄で発生したごく小規模な泥混じりの熱湯の噴出は、その後も消長を繰り返しながら継続しています（登別市による）が、これらの現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・ 地震活動（図 5、表 1）

今期間観測された地震はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

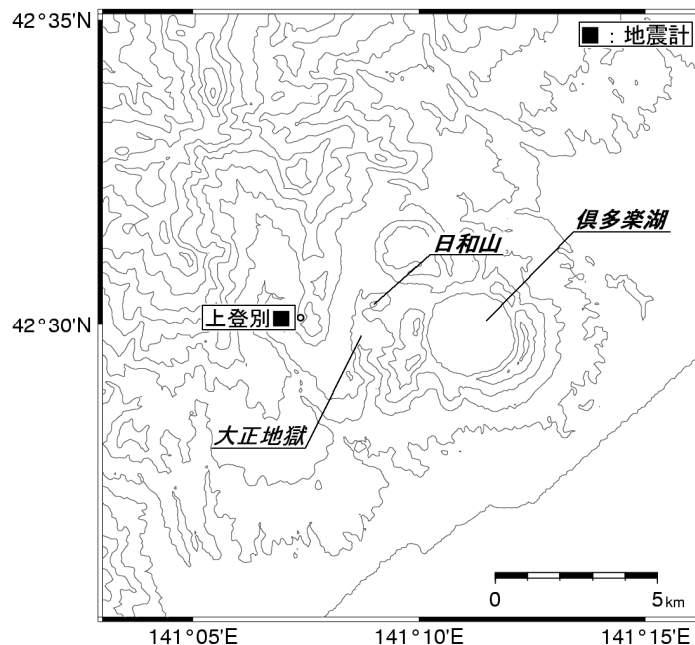


図 1 倶多楽 地震計配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 5 月分）は平成 20 年 6 月 6 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

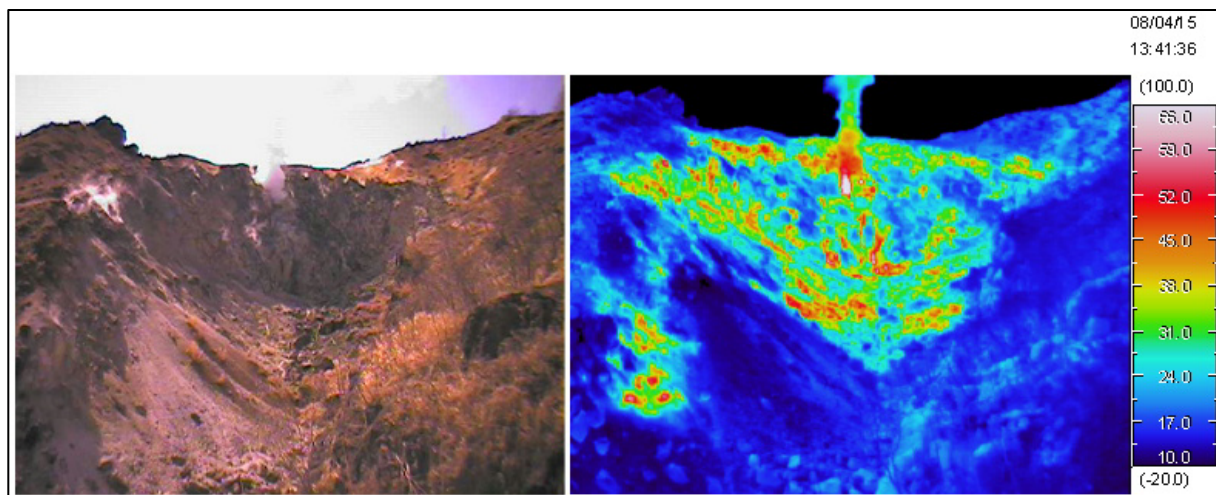


図2 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による日和山山頂部北西側噴気孔の地表面温度分布 (2008年4月15日 図4の①方向から撮影)

・日和山山頂部の噴気孔からは、白色の噴気が20~30m程度上がっていました。噴気温度(直接測定)は2006年まで約120℃程度で推移していましたが、2007年10月は131℃、2008年4月の測定では134℃と、以前の状況と比較すると約10℃高い状況で経過しています。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図3 倶多楽 地獄谷付近の状況 (2008年4月15日 図4の②方向から撮影)



図4 倶多楽 日和山・地獄谷周辺図

・地獄谷爆裂火口、大湯沼及び奥湯沼の状況は前回(2007年10月)と大きな変化はなく、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも地熱域の状況に変化は認められませんでした。

表1 倶多楽 地震・微動の月回数 (図2の上登別)

2007~2008年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
地震回数	0	1	1	12	0	15	0	4	1	4	1	0
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

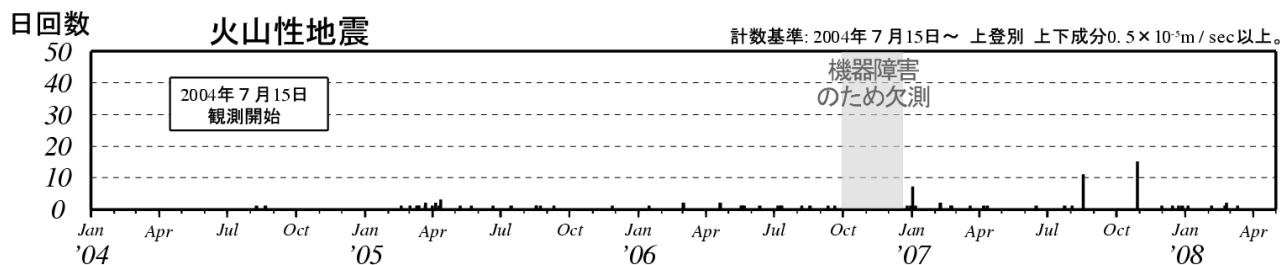


図5 倶多楽 日別地震回数 (2004年7月~2008年4月)